

■ プログラム

第1会場 (10F 1003)

開会挨拶

8:20 ~ 8:30

教育セミナー 1

AF再セッションを考える — 多彩な戦略とその実際

8:30 ~ 9:30

座長：福沢 公二（神戸大学医学部附属病院循環器内科）

妹尾恵太郎（京都府立医科大学不整脈先進医療学講座）

パルスフィールドアブレーション時代のケミカルアブレーション

鎌倉 令（国立循環器病研究センター）

「教育的な」non-PV トリガーアブレーションのお話

松永 泰治（大阪労災病院循環器内科）

Do する?! 持続性心房細動の2ndセッション

川治 徹真（三菱京都病院）

〈セッション要旨〉

心房細動（AF）アブレーション後の再セッションに臨む際には、症例ごとに異なる背景や機序を踏まえた柔軟な戦略が求められます。本教育セミナーでは、多彩なアプローチの中から、Marshal vein ablation, Non-PV トリガーの診断と治療、持続性AFに対する driver map を用いた戦略について、3名の先生方にわかりやすくご解説いただきます。再発例への対応を整理するとともに、初回セッションにも応用できる視点を学ぶことで、臨床にすぐ役立つヒントを得られる内容です。多様な工夫を共有しながら、今後の治療戦略を考えるヒントを一緒に学んでいただければ幸いです。

Oral Session 1 AF/AFL/AT-PFA ①

9:35 ~ 10:30

座長：田中 宣曉（桜橋渡辺未来医療病院）

西脇 修司（京都大学医学部附属病院）

O1-1 VARIPULSE™ によるパルスフィールドアブレーションで形成された上大静脈の低電位領域が慢性期にも残存し心房細動の起源となり得た一例

竹内 太郎（NHO 大阪医療センター循環器内科）

O1-2 肺静脈隔離時のパルスフィールドアブレーションによる不完全な lesion 形成が誘因と考えられた左心耳基部起源心房頻拍の1例

村上 篤志（神戸大学医学部附属病院循環器内科）

O1-3 右肺静脈への Pulsed Field Ablation が、右心房に影響することに留意すべきと示唆された2症例

小倉 和浩（済生会野江病院）

O1-4 FARAPULSEによる肺静脈隔離における Ensite X 3.1.1 の初期使用経験

渋谷 祐樹 (大阪けいさつ病院循環器内科)

Best Abstract Award 選考会

10:40 ~ 11:40

座長：峰 隆直 (兵庫医科大学循環器内科)

黒井 章央 (和歌山県立医科大学)

審査員：西田 卓 (奈良県立医科大学循環器内科)

伊藤 光哲 (兵庫県立はりま姫路総合医療センター)

川崎真佐登 (大阪急性期・総合医療センター)

関原 孝之 (大阪大学大学院医学系研究科循環器内科学)

BA1 I 度房室ブロックを伴う房室結節リエントリー性頻拍に対する、洞調律下の Vector map と Koch 三角ペーシング法の併用が有用であった一例

木村 光輝 (医学研究所北野病院不整脈科)

BA2 2 パターンの AH interval で巡回する superior-type fast/slow AVNRT の 1 例

山下宗一郎 (兵庫県立淡路医療センター循環器内科)

BA3 中隔枝領域を含む Purkinje de-networking の重要性が示唆された polymorphic VT の 1 例

岡 怜史 (国立循環器病研究センター心臓血管内科部門不整脈科)

BA4 心房細動アブレーションにおける患者経験の比較：PFA, RFA, CBA の検討

岩佐 浩平 (桜橋渡辺未来医療病院不整脈科)

ランチョンセミナー 1

心房細動治療のこれから ～安全性と有効性の両立を目指して～

11:55 ~ 12:55

座長：静田 聡 (日本赤十字社和歌山医療センター)

HD Grid が好きです。でも HD Grid Xの方がもっと好きです。

山上新太郎 (天理よろづ相談所病院)

ViewFlex を活用して PFA の成績を上げる！

宮本 康二 (国立循環器病研究センター)

共催：日本光電工業株式会社 / アボットメディカルジャパン合同会社

教育セミナー 2

不整脈の未来をひらくサイエンス：臨床と研究のクロストーク

13:10～14:10

座長：堀江 稔（滋賀医科大学循環器内科／京都民医連中央病院）
牧山 武（京都大学大学院医学研究科循環器内科）

トランスレーショナルリサーチで拓く不整脈学：臨床家が知っておくべき細胞電気生理と心筋再生

李 鍾國（大阪大学大学院医学系研究科循環器内科学／園田学園大学人間健康学部総合健康学科）

知っていると、ちょっと得する遺伝性不整脈の話

大野 聖子（国立循環器病研究センターメディカルゲノムセンター）

〈セッション要旨〉

「不整脈の未来は、基礎と臨床の橋渡しにかかっている」——日々の診療で感じる疑問や迷いの答えが、実は基礎研究の中に隠れていることがあります。本教育セミナーでは、「不整脈臨床家が知っておくべきサイエンス」をテーマに、ゲノムサイエンス、細胞電気生理、心筋再生など、いま注目される話題を2名のエキスパートがわかりやすくお届けします。診療のヒントになる知識はもちろん、未来の医療を一緒に考えるきっかけも見つかるはずです。ナショナルセンターや大学、医療機関、企業が集まる近畿地区ならではの最新の研究にふれる、またとない機会です。どうぞ気軽に足をお運びいただき、ともに学びの時間を過ごしましょう。

シンポジウム

AIとデジタルで変わる！臨床現場の不整脈マネジメント

14:15～15:50

座長：李 鍾國（大阪大学大学院医学系研究科循環器内科学／園田学園大学人間健康学部総合健康学科）
草野 研吾（国立循環器病研究センター心臓血管内科）

Apple Watchを用いた心房細動マネジメント

須永 晃弘（大阪大学大学院医学系研究科循環器内科学）

AI心電図の臨床応用

妹尾恵太郎（京都府立医科大学不整脈先進医療学講座）

遠隔モニタリング業務における管理システム (MeisterPMM) を利用した多職種でのタスクシフト・シェア

石橋 耕平（国立循環器病研究センター心臓血管内科部門不整脈科）

不整脈診療におけるAIおよび保険診療

芦原 貴司（滋賀医科大学情報総合センター・医療情報部・循環器内科）

〈セッション要旨〉

「AIとデジタルで、あなたの診療が変わる」
スマートウォッチやAI心電図、さらには遠隔モニタリングシステムの進化により、不整脈診療は新たなステージを迎えています。本セッションでは、「AI・デジタルデバイス×遠隔診療：不整脈マネジメントの新時代」をテーマに、4名のエキスパートが最新の話題を紹介します。アップルウォッチを活用した診療の可能性、AI心電図による新しい診断のかたち、多職種でのタスクシフトを実現する管理システムの実例、そしてAIを臨床に実装する際の保険診療の視点まで、多角的に議論します。明日の臨床にすぐ役立つ知識とヒントをお持ち帰りいただけるセッションです。

特別企画(1部) PVCアブレーションへの挑戦

16:00 ~ 17:00

座長：岡 崇史(大阪大学大学院医学系研究科循環器内科)

LVサミットの裏側：PSP-LV起源PVCを攻略する

岡田 真人(桜橋渡辺未来医療病院)

エタノールが救ってくれたPVC/VT治療

山下宗一郎(兵庫県立淡路医療センター)

His束近傍起源心室期外収縮－安全な治療のポイントと当院の現状－

鯨 和人(兵庫県立尼崎総合医療センター)

〈セッション要旨〉

心室期外収縮(PVC)は頻発例や心機能低下を伴う症例では治療適応となり、アブレーションは重要な治療選択肢として位置づけられています。しかし、起源が多彩であり、複雑な心内伝導経路や周囲構造との関係から、その治療は必ずしも容易ではありません。本セッションでは、「PVCアブレーションへの挑戦」をテーマに、3名のエキスパートから最新の知見と実臨床での工夫を紹介いただきます。マッピング技術の進歩や解剖学的難治部位への対応、新たな治療戦略に関する話題を通じて、日常臨床に直結する実践的なヒントを共有し、参加者の皆さまに明日からの診療に活かしていただける場としたいと考えています。

特別企画(2部) Conduction System Pacing (CSP) の可能性と課題**－ 合格点はどこにあるか？**

17:05 ~ 18:05

座長：井上 耕一(NHO大阪医療センター)

ガイドラインと最新のエビデンスから考えるCSPの適応と合格点

西田 卓(奈良県立医科大学循環器内科)

CSPを積極的に活用すべきである

占野 賢司(大阪市立総合医療センター循環器内科)

リードの耐久性・抜去から考える現行システムでの刺激伝導ペーシングー中長期の安全性における懸念

南口 仁(大阪けいさつ病院循環器内科先進不整脈治療センター)

〈セッション要旨〉

CSPの臨床導入において、私たちはどこに「合格点」を設定すべきでしょうか。

近年、CSPはより生理的な心臓の動きを再現し、心機能の改善をもたらす新たな選択肢として注目されています。しかし、その長期成績や合併症リスク、留置部位の最適化など、なお議論すべき課題も少なくありません。本セッションでは、CSPの積極的活用を推進する視点、標準治療とのバランスを重視する視点、さらに普及の在り方を慎重に考える視点まで、多角的な立場からご講演いただきます。臨床現場での実践を見据え、参加者の皆さまとともに最適な到達点を考える機会となるでしょう。ぜひご参加ください。

表彰式・閉会挨拶

18:05 ~